

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05169

研究課題名(和文) 中国華南の地域構造の再編に関する地理学的調査研究

研究課題名(英文) Geographical study on the reorganization of regional structure in the South China

研究代表者

小島 泰雄 (KOJIMA, Yasuo)

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：80234764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は中国華南で進行する地域構造の再編を、地理学の総合的なフィールド調査により実態的に解明することを目的とするものである。2015年に広州市、2016年に江門市、2017年に深セン市において、いずれも夏季に2週間のフィールド調査を、中国中山大学の研究者の協力をうけて実施した。都市班、農村班、文化班、民族班等に分かれて、住民の聞き取り、景観観察、資料収集などを行い、地域の様態を多面的に探った。改革開放政策による発展の先導役を担ってきた珠江デルタは、工業地域としての性格を維持しながら、都市発展を基礎とした文化的、社会的な変容が顕著となっている。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the reorganization of regional structure in the South China actually through integrated field survey based on geography. Field surveys were conducted at three areas, such as Guangzhou in 2015, Jiangmen in 2016 and Shenzhen in 2017. Researchers of Sun Yat-sen University provided great support for the investigation. We organized several research groups for urban, rural, cultural, ethnic and economic issues and carried out interviews with local residents, landscape observation, and data collection to understand the regional situation in these fields. The Pearl River Delta region which has led the national development under the Reform and Opening-up Policy still maintains its characteristics of industrial area, while it shows significant changes in cultural and social space due to high-speed urbanization.

研究分野：人文地理学

キーワード：人文地理学 中国 珠江デルタ フィールド調査 地域構造

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国華南の地域構造にかかわる研究は、改革開放政策の導入とともに本格化した。1980年代初めには、従来の孤立主義的な社会主義建設から国外の資金と技術を移入しての市場経済化への転換には強い抵抗があり、政治中心である北京から遠隔した華南でそれが試行されることとなった。イギリス植民地であった香港は海外への窓口の役割を担い、華南は3000万人とされる華僑の故郷(僑郷)として華僑ネットワークの結節点であることが、所与の地域的条件として重視された。この結果、華南地域には「来料加工」などと呼ばれた加工貿易に携わる中小企業が叢生し、中国経済改革の先進地となった。

(2) 地域構造の再編を問う本調査研究は、こうした華南開発の与件として位置性、地域性が深く関わっていたことを出発点に据えて、その現在の展開を考察する。1990年代半ばから中国が高度経済成長に入っても、華南の先進性は維持され、雑貨や衣料の生産から電子部品組立などへのステップアップを伴い、新たな工業団地が珠江デルタ一帯に展開され、「世界の工場」と呼ばれる様相を呈することとなった。とくに注目されるのは、この開発モデルを実現したのが安価で優秀な若年労働力が内陸部から間断なく大量に「農民工」として供給されたことである。本調査研究が多地域で中国研究に従事してきた地理研究者からなることは、華南の地域構造を常に中国スケールとの往還において考察することを可能にするものである。

2. 研究の目的

中国華南で進行する地域構造の再編を、地理学の総合的なフィールド調査により実態的に解明することをめざす。華南は香港と僑郷という地域的条件から、経済特区に象徴される改革開放政策の試行地とされ、高度経済成長下でもグローバル化と結びついた経済発展を遂げた。しかし、今世紀に入って長江デルタなど他地域の急成長による相対的な地位低下や、世界金融危機の影響をうけ、華南は農民工による労働集約型工業への依存からの構造転換を求められることとなった。すでに中国経済改革の旗頭という地域像は陳腐化しており、地域構造の再編を究明することは学術的課題であると同時に、日本企業の立地選択に寄与する社会的な意義を内包する。

3. 研究の方法

中国華南の地域構造の再編を解明するに際して、フィールド調査を主たる方法とした。研究期間の3年、毎年夏季に華南の3都市、第1年次は広州、第2年次は江門、第3年次は深センに赴き、およそ2週間にわたって、地域住民と行政官・研究者に対する聞き取り、景観の観察、地誌や統計などの資料収集から

なるフィールド調査を行った。実施にあたってはメンバーを複数のグループ(都市班、農村班、経済班、文化班、環境班等)に分けて、効率的な活動を行った。中国における外国人の調査活動に必須のカウンターパートは、中山大学地理科学与规划学院の劉雲剛教授が務め、フィールド調査には劉先生の同僚と指導学生に協力いただいた。調査で得た知見を共有するために、毎年度、中国から研究者を招聘して国際ワークショップを開くとともに、日本地理学会大会において科研グループとしての発表セッションを設け、地理学内外の研究者と学術的な成果をめぐって討議を行った。

4. 研究成果

(1) 広州フィールド調査(2015年)は、事前の研究集会および研究分担者である小野寺淳が広州に渡航して行った調整を経て、8月6日から19日までの2週間にわたって、中国広東省広州市とその周辺において実施された。参加者は研究代表者・研究分担者全員に加えて、研究協力者として秋山元秀・李小妹・田秋香の3名が加わった。フィールド調査は都市班、文化班、農村班、交通班、産業班、環境班、民族班に分かれて行われた。各班には中国側の調査協力者として中山大学地理科学与规划学院の劉雲剛先生と教員・大学院生が加わった。現地で珠江デルタの地域性について中間・総括討論会を行ったほか、年末には京都大学百周年時計台記念館において国際ワークショップを開催した。さらに年度末に早稲田大学で開催された日本地理学会2016年春季学術大会において広州研究のセッションを設定した。

(2) 江門フィールド調査(2016年)は、8月7日から15日まで中国広東省江門市において行われた。現地では、農村班(小島)、開発班(小野寺)、都市班(秋山)、文化班(松村)、人口班(阿部)、僑郷班(李)、教育班(柴田)、環境班(松永)に分かれて調査活動が進められ、それぞれの班にカウンターパートとして中山大学の若手教員・大学院生が同行した。さらに中山大学図書館等において関連する資料の収集が行われた。年末にはキャンパスプラザ京都において国際ワークショップを開催し、江門調査の成果について討論を深めた。また8月に北京で開催された国際地理学会議第33回大会において、小島・小野寺・松村・阿部がそれぞれ研究発表を行った。

(3) 深センフィールド調査(2017年)は、8月13日から20日まで中国広東省深セン市において行われた。研究代表者と研究分担者のほかに柴田陽一と李小妹の若手研究者が参加した。現地においては、都市班、農村班、景観班、民族班、経済班、文化班、教育班の7グループを編成して、日本側と中国側の力

ウンターパートである中山大学の教員と大学院生が共同調査を行った。また本隊調査の終了後に、小島等4名が粵東地域の巡検を実施し、珠江デルタ周縁地域の現状を確認した。年末には神戸市に集まってワークショップを開催し、各グループの知見を共有するとともに、研究成果の総合と公開についてディスカッションを行った。年度末に開催された日本地理学会2018年春季学術大会において深セン研究のセッションを設定し、学界に成果を公表した。また同大会においては日本地理学会中国地理研究グループと共催で、若手中国研究者の珠江デルタ認識をめぐる研究会を開催した。

(4) 調査を通して得られた知見は各研究者による論文および学会発表を通して公表を重ねており、まもなく調査報告書のシリーズ刊行も始まる運びとなっている。それら個別の研究成果を総合する作業は、2度にわたって日本地理学会大会において設定されたセッションや、年度ごとに開催した国際ワークショップで行われた。本研究課題の目的である地域構造の再編の解明については、その地域性と歴史性をめぐって、次のような共通認識を得るに至っている。珠江デルタの地域構造は、広東省の省都である広州と特別市である香港とマカオという3つの高次中心によって統合される体系を有している。広州は珠江デルタ全体の中心としての機能を高めつつあり、それに伴う都市建設が進展し、国際性が高まるとともに、文化領域においても先進性を発揮している。香港に隣接する深センは、経済特区として中国の産業化の窓口となってきたが、都市機能の更新が進み、中国におけるイノベーションの中心としての性格を強めている。江門市が位置する珠江デルタ西岸は、東岸に比して産業化が遅れていたが、2008年の世界金融危機を一つの画期として進む産業構造の転換をうけて、より内発的な発展への移行が求められるようになっていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

小野寺淳、土地制度のゆらぎから見る中国の「城中村」—広州市獵徳村に注目して、横浜市立大学論叢人文科学系列、査読無、69-3、印刷中

柴田陽一、中国都市部における学区再編と学校間格差—広東省江門市を事例として、撰大人文学、査読無、26巻、2018、181-208、<http://id.nii.ac.jp/1213/00001043/>

小島泰雄、筒井一伸、シンポジウム報告「田園回帰と地理学理論」、E-journal GEO、査読有、12-2、2017、318-321、<https://ci.nii.ac.jp/ognavi?name=crossref&i>

d=info:doi/10.4157/ejgeo.12.318

阿部康久、中国珠江デルタ地域へのホワイトカラーの都市間移動と就業継続意志、日本都市学会年報、査読有、50巻、2017、99-108

小島泰雄、中国の一人っ子政策の転換、地理・地図資料、査読無、1号、2016、7-10

小島泰雄、書評：山下清海編著『改革開放後の中国僑郷 在日老華僑・新華僑の出身地の変容』、地理学評論、査読有、89-4、2016、184-186

松村嘉久、香港におけるグラフィティと空間の特性、観光学術学会第5回大会発表要旨集、査読無、5、2016、88-89

〔学会発表〕(計17件)

小島泰雄、深センの農村はいかにして無くなったのか、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

小野寺淳、深センにおける都市開発と城中村の土地権利関係 皇崗村と湖貝村の事例から、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

李小妹、深セン華僑城における都市空間の生産と文化の商品化、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

高橋健太郎、深セン市のムスリム関連施設の分布と特徴、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

松村嘉久、深センにおけるグラフィティと都市空間の諸相、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

柴田陽一、深センにおける越境通学児童の発生要因と現状、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

阿部康久、林旭佳、高瀬雅暁、中国の日系自動車メーカーにおけるディーラーの分布と修理・メンテナンス用部品の管理システム

広汽トヨタ社を事例として、日本地理学会2018年春季学術大会、2018年3月22日、東京学芸大学

KOJIMA Yasuo, Economic development and cultural change in rural Guangzhou, The 33rd International Geographical Congress, 2016/8/24, China National Convention Center, Beijing, China

ONODERA Jun, Development of a new city centre and functional changes of urban villages in Guangzhou china, The 33rd International Geographical Congress, 2016/8/24, China National Convention Center, Beijing, China

MATSUMURA Yoshihisa, The Interaction between urban space and graffiti in Japan Taiwan and Hongkong, The 33rd International Geographical Congress, 2016/8/24, China National Convention Center, Beijing, China

松村嘉久、中国人のモビリティの変容、日本現代中国学会2016年度関西西部会大会、2016

年6月4日、龍谷大学

小島泰雄、広州近郊農村における経済発展と文化復興、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年3月21日、早稲田大学

小野寺淳、中国広州市における新都心の開発と城中村の機能変化、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年3月21日、早稲田大学

秋山元秀、中国広州における地下鉄網の展開と都市構造、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年3月21日、早稲田大学

阿部康久、閩陽ほか2名、中国華南地域へのホワイトカラーの都市間人口移動と定住への意志、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年3月21日、早稲田大学

李小妹、広州市のムスリム社会の多様性と変貌、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年3月21日、早稲田大学

李小妹、四つのモスクからみた広州の多国籍・多民族的ムスリム社会、第50回情報文化研究会、2015 年12月6日、國學院大學

〔図書〕(計6件)

神谷浩夫、丹羽孝仁編、阿部康久ほか、ナカニシヤ出版、若者たちの海外就職―「グローバル人材」の現在、2018、205

秋山元秀ほか編、小島泰雄、小野寺淳、高橋健太郎、柴田陽一ほか、朝倉書店、世界地名大事典第1巻アジア・オセアニア・極（ア～テ）、2017、1248

秋山元秀ほか編、小島泰雄、小野寺淳、高橋健太郎、柴田陽一ほか、朝倉書店、世界地名大事典第1巻アジア・オセアニア・極（ト～ン）、2017、1208

加賀美雅弘編、小野寺淳ほか、朝倉書店、世界地誌シリーズ9ロシア、2017、176

小島泰雄ほか、帝国書院、高等学校新地理A、2016、210、

中島勝住編、柴田陽一ほか、京都精華大学、少子高齢化地域の存続と小規模学校の継続可能性についての総合的研究、2016、266

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ
<http://www.kojima.geo.h.kyoto-u.ac.jp/huanan/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小島 泰雄 (KOJIMA, Yasuo)
京都大学・大学院人間・環境学研究所・教授
研究者番号：80234764

(2) 研究分担者

小野寺 淳 (ONODERA, Jun)
横浜市立大学・都市社会文化研究科・教授
研究者番号：50292206

松村 嘉久 (MATSUMURA, Yoshihisa)
阪南大学・国際観光学部・教授
研究者番号：80351675

高橋 健太郎 (TAKAHASHI, Kentaro)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：30339618

阿部 康久 (ABE, Yasuhisa)
九州大学・比較社会文化研究院・准教授
研究者番号：10362302

松永 光平 (MATSUNAGA, Kouhei)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：80548214

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

秋山 元秀 (AKIYAMA, Motohide)
柴田 陽一 (SHIBATA, Youyichi)
李 小妹 (LI, Xiaomei)
田 秋香 (TIAN, Qiuxiang)
劉 雲剛 (LIU, Yungang)